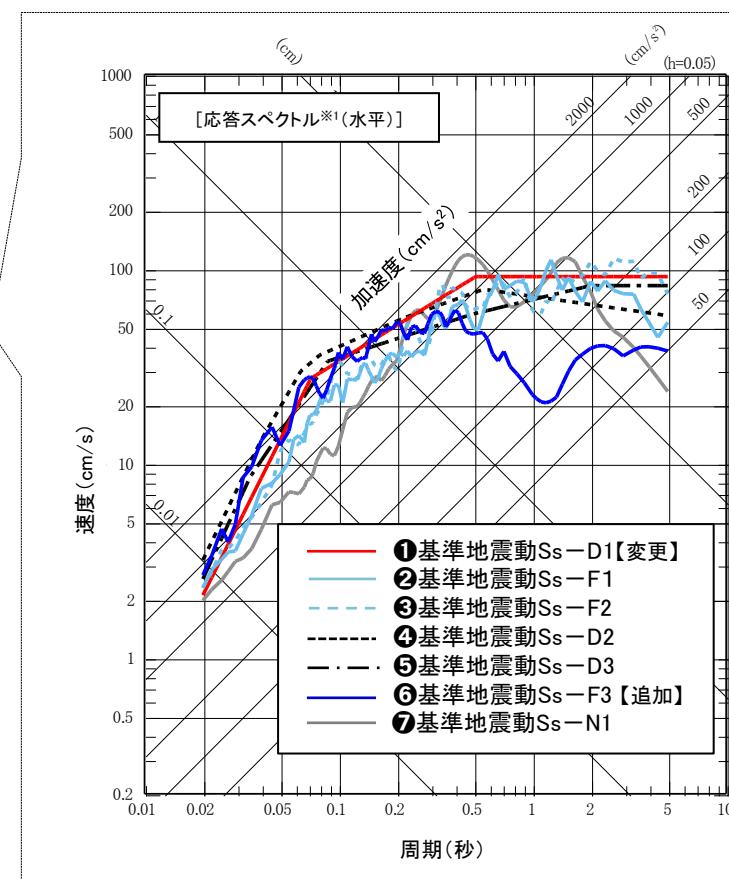


女川原子力発電所2号機 新規規制基準適合性審査における基準地震動の変更および追加について

- 前回(平成28年12月9日)の審査会合において、これまでの「震源を特定して策定する地震動(プレート間地震、海洋プレート内地震、内陸地殻内地震)」および「震源を特定せず策定する地震動」による地震タイプごとの追加評価結果を踏まえ、申請時に設定した基準地震動Ss-2(1,000ガル)の評価を見直すとともに、新たに4つの地震動を追加し、計6つの地震動を基準地震動として設定した旨を説明しました。
- このたび、前回の審査会合におけるコメントを踏まえた再検討を行った結果、プレート間地震を考慮した基準地震動Ss-D1について、保守的に裕度を持たせる観点から、応答スペクトル※1の形状および地震動の継続時間を変更しました。また、海洋プレート内地震について、Ss-D2およびSs-D3と異なる評価手法による地震動を1波追加することとし、合計7波としました。
- なお、最大加速度は、Ss-D2の1,000ガルから変更はありません。

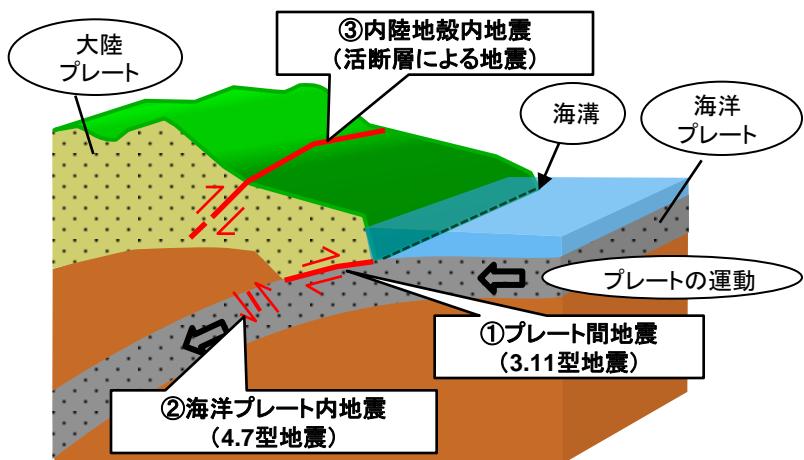
【地震動の評価】 注:表中の加速度は、すべて水平方向の加速度

	適合性審査申請時の評価		追加検討の状況(審査中)	
			前回策定時 (平成28年12月9日審査会合)	新たな基準地震動
震源を特定して策定する地震動	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震、M9)を考慮 基準地震動 Ss-1 640ガル	①基準地震動Ss-D1 640ガル ②基準地震動Ss-F1 717ガル ③基準地震動Ss-F2 722ガル	【変更】 ①基準地震動Ss-D1 640ガル ・裕度をもたせた設定
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日宮城県沖型地震(4.7型地震、M7.5)を考慮 基準地震動 Ss-2 1,000ガル	④基準地震動Ss-D2 1,000ガル ⑤基準地震動Ss-D3 800ガル	【追加】 ⑥基準地震動Ss-F3 835ガル ・断層モデルを用いた地震動評価手法※2による地震動を追加して設定
	③内陸地殻内地震	F-6断層~F-9断層(M7.1)による地震を考慮	(④Ss-D2、⑤Ss-D3を下回る)	(①Ss-D1、④Ss-D2、⑤Ss-D3を下回る)
震源を特定せず策定する地震動	従来の見 (450ガル)	⑥基準地震動Ss-N1 620ガル	⑦基準地震動Ss-N1 620ガル	



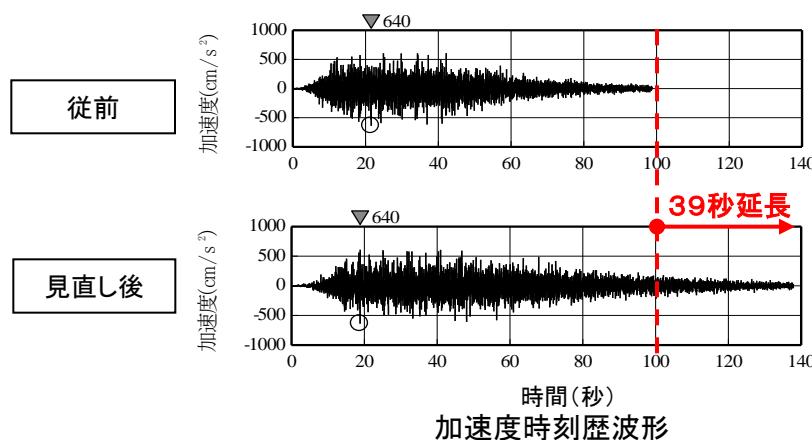
※1 応答スペクトル: 地震動がいろいろな構造物に対して、どの程度の大きさの揺れ(応答)を生じさせるか描いたもの

※2 断層モデルを用いた地震動評価手法: 震源断層の破壊過程をモデル化し地震動を評価する手法であり、対象とする地震動の特性を精緻に反映させた時刻歴波形を作成できる

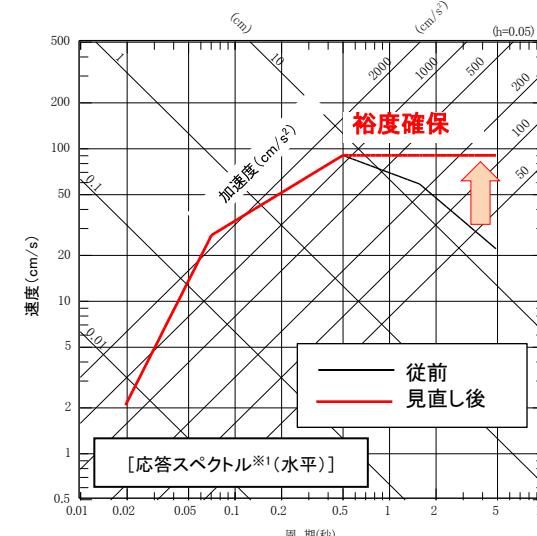


[参考] 地震の発生様式イメージ

①基準地震動Ss-D1の変更について



<地震動の継続時間見直し>



<応答スペクトルの形状見直し>